

「神興東歴史の旅」第7弾

神興神社

久末区 的場文彦

神興神社は福間東中学校の南側（津丸字元神興）、小高い丘の上にあります。

神社の祭神は「宗像三女神」で、宗像大社の社説（宗像三所大菩薩縁起）には

宗像三女神、はじめは室木（旧鞍手町室木）の六ヶ岳に天降りまして、のち津丸郷にお移りになり、ここで、神威がますます輝きわたった。そこでこの里を神興村という。その後、今の沖の島「田心姫命」（たごりひめのみこと）、大島「湍津姫命」（たぎつひめのみこと）、田島「市杵島姫命」（いちきしまひめのみこと）の三所にお鎮まりになった。

と伝えている。

（以上ふるさと文化財探訪記 福間町教育委員会発行）



《手水鉢》

いつの頃から不明ですが、神社は、兵乱のため、畦町の高見山に祀られ、さらに、寛永十三年（1636）鳥巢村の内に

移られ、その後、夢のお告げがあり、現在地に移ったとされています。神社の祭典は、津丸、久末、八並、手光、村山田、上西郷、下西郷（両谷、四角あたり）本木、畦町、内殿、舍利蔵の十一村により催行されていました。神興神社は雨ごいの神様とされ、昭和の初めの頃までは干ばつの時には、御神体をかついで、福間宗像宮（ふくまそうぞうぐう）まで「お下り」が行われていました。

また、昭和40年ころまでは、10月5日の大祭（放生会、神興さま）では神社境内に舞台が設置され、博多にわかや青年団等の地元人による芝居、相撲、剣道の奉納大会のほか、夜店もあり子供にとって、田島様（宗像大社秋の大祭）の前の楽しみの祭りでした。

現在は、同日に津丸、久末の主催で、前記地区に加えて通り堂、冠、高平、小竹、東福間、若木台、あけぼの、桜川、三角の氏子会で秋季大祭が大森宮



《本殿》

祭主のもと催行されています。イベントとしては、郷づくり神興東主催の子ども相撲大会が行われています。

神社の南側にはかつて神興廃寺があり、その心礎となる礎石が現在の神社の手水鉢として使用されていますが、大きさ（径1 m 8 8 cm、横1 m 4 0 cm）から神殿の宏大さがしのべられます。

【神興廃寺】 福間町史通史編（平成十二年発行）より抜粋、編集

神社の南側の果樹園には、昭和四十年代まで古瓦が小山のように積まれた瓦塚が残っていました。大正四年、その中から「延喜十一年」銘の平瓦や丸瓦が発見され、世間の注目を集めました。

平成三年、福間町教育委員会の発掘調査により、八世紀末から九世紀の須恵器杯や鴻臚館系軒丸瓦等が多数発掘されました。これにより、神興廃寺の創建は八世紀後半ごろとの説が裏付けられ、また、十二世紀代には廃絶と言われています。

また、糟屋町の駕輿丁廃寺等の他市の遺跡を考慮すると、神興廃寺は八世紀後半に北部九州で郡単位に分



《子ども相撲大会》

布する、郡司クラスの地方豪族が建立者となった古代寺院跡の一つと言われています。

神興廃寺は宗像郡大領を独占した宗像氏が建立したと見て差し支えないと思われます。